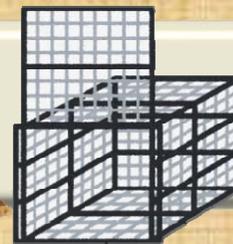


【取組概要】

- 鳥獣被害対策である「捕獲班」の取組で、協定構成員に「集落は集落が守る」という共通の意識が芽生える。
- さまざまな取組みが農用地を維持していくという目的と結束力を生み、将来は法人化も見据えている。



地域の現状

当地区は、江北町の山頂より有明海を臨める風光明媚な集落協定。平成12年度から協定に基づく活動を実施。

生産者の高齢化・後継者不足が進む中、構成員21名のうち3名が44歳以下で、30代から70代まで各世代を超えての集落コミュニティを形成。

協定の概要(H28)

1. 取組面積 12.4ha
(田 12.4ha 畑 ha)
2. 交付金額 230.3万円
個人配分 30%
共同取組 70%
3. 協定参加者 21人
農業者 21人



交付金はこんなことに活用しています！

主に鳥獣被害対策費、農路・水路管理費、枝の除去費

取組経緯

ステップ1 取組開始のきっかけ、開始時の苦労点

町の補助金等を活用してワイヤーメッシュを設置しているが、近年鳥獣被害が増えるとともに、町内の猟友会員の高齢化が進んでいることから、地域ぐるみで対応する「捕獲班」に取り組んだ。開始時においては、杵島地区有害鳥獣広域駆除対策協議会より箱罠等の資材を借用し、資金面をカバーした。

ステップ2 創意工夫した点

10数年前に機械利用組合を設置。大型コンバイン2台（米麦用・大豆用）、トラクター3台（耕運用・麦大豆カルチ用・機械けん引用）、田植機2台他と充実。機械利用組合のオペレーターは、農家の急な農作業にも対応できるよう、協定外の非農家にも依頼できるようなシステムを作っている。また、棚田を活用した特産品の検討を絶えず行っている。（おくら・とうじカボチャ計画）

ステップ3 取組による変化と今後の課題

「岳区の棚田」では、ほたるが飛び、有明海の漁火も見える。宿泊できるようなコテージを作り、都市部からの呼び込みなど、棚田の景観を活かすことで、集落の未来を支える若い農家の道をつくりたい。

【取組みによる効果】

「集落は集落が守る」という意識の徹底は、ワイヤーメッシュの年4回の点検の他にも、協定構成員が自発的に点検する姿勢につながった。

【協定代表者から一言】

岳区集落の農業が、次の世代の為に、楽しい夢のある仕事として提供したい。

【岳区における捕獲班の取組み】

狩猟免許を取得した2名を中心に、集落内での有害鳥獣（イノシシ、アライグマ等）による農作物被害を減らすため、地域ぐるみで有害鳥獣の捕獲体制を整備し、わなの見回り、エサまき等を行っている。



岳区集落協定 代表



箱罠の設置状況